

# 現代 左官事情

<その86>

## 「建築と左官」

### 21.伊太利復興式 (ルネッサンス様式) の内閣文庫庁舎(5)

ものづくり大学  
特別客員教授  
鈴木 光

汗をかかない日々が待ち遠しい毎日です。  
今回は、旧内閣文庫の設計者、大熊喜邦と  
その関連人物に迫ります。 (編集部)

### 3. 旧内閣文庫庁舎の概要

3.1 旧内閣文庫庁舎の設計者 大熊喜邦  
旧内閣文庫庁舎の設計者は大熊喜邦<sup>おおくまよしくに</sup>で、彼が現在の国会議事堂の完成者とされている。大熊は明治10年、父が旧幕臣であった長男として麹町で生まれた。第一高等学校を経て、東京帝国大学工科大学建築学科を卒業し、卒業後、大学院に籍を置き、横河民輔<sup>よこがわみたすけ</sup>の横河工務所に入所し、ここで帝国劇場などの設計に関与した。横河工務所を退所後、大熊は大蔵省に入省し官僚として活躍する。横河工務所時代に線を引いていた帝国劇場が完成した時期に、大熊は旧内閣文庫庁舎の設計者として帝国劇場と目と鼻の先にいた。

大熊の最初の本格的な仕事が、内閣

大熊喜邦 明治10年(1877)~昭和27年(1952)



写真28 相曾秀之助作の帝国議会議事堂基本設計模型  
「鏡」伊豆の長八と新宿の左官 新宿歴史博物館編集より

#### 帝国議会議事堂での左官職人

伊藤菊三郎：大理石彫刻と木彫彫刻の原型を作る。号は甲艸で、明治22年東京生まれ。吉田亀五郎の門下、大正時代に吉田亀五郎の紹介により漆喰以外の石膏の取り扱いを牧野萬蔵のもと建築装飾造模模型や石膏彫刻などを修得する。代

表作品として大日本郵船ビルの石膏装飾原形や松阪屋呉服店の彫刻模型がある。相曾秀之助：議事堂の建築では、全ての装飾部分について石膏で模型が作られた。熊木三次郎の門弟の曾秀之助は工部美術学校出身で、佐野昭とともに多くの模型を作製した。熊木三次郎は47歳の明治7年に没しており、帝国議会議事堂は本来彼が手がけていたであろうと推測する。

表12 国会議事堂

建築物名	帝国議会議事堂(現国会議事堂)
所在地(現在)	千代田区永田町
竣工年	昭和11年(1936)
設計者	大蔵省営繕課財務
左官職人	相曾秀之助・伊藤菊三郎・伊藤登日太郎・藤井平太郎
施工内容	装飾模型・彫刻原型



写真29 中央広間の石膏装



写真30 御休所前廊下天井石膏装



写真31 大熊喜邦

建築雑誌「日本建築学会120年史」日本建築学会より

近代建築では、壁や天井の装飾の左官技術は重要なものであった。左官職人は鏝絵を作る技術を漆喰から新しい材料である石膏を使い、油土で作る石膏装飾の原型づくりに活躍していく。彼らは建物内部の装飾を手掛け、彫刻家などともいわれるようになり、図面に基づいて油土や石膏で原型と模型を作るようになる。